

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科

国語 科目 論理国語

教科： 国語 科目： 論理国語

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者： (1・3・5・7組：倉田) (2・4・6組：田中)

使用教科書： (「論理国語」筑摩書房 )

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使用しようとする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関りの中で伝え合う力を高めようとする。

【学びに向かう力、人間性等】言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨こうとする。

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けられている。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、他者との関りの中で伝え合う力を高められている。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			語	聞	書 読					
1 学 期	「一〇〇パーセントは正しくない科学」 【知識及び技能】 学術的な学習の基礎を学ぶために必要な語句の量をふやす。推論の仕方について理解を深め使う。 【思考力、判断力、表現力等】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 「一〇〇パーセントは正しくない科学」 人と世界を結ぶことばの働きを理解する ・教材 教科書 国語便覧 「現代文キーワード読解」 ・一人1台端末の活用 等 生徒間の意見の共有・検討を一人1台端末を活用しておこなう			○ ○	「一〇〇パーセントは正しくない科学」 【知識及び技能】 学術的な学習の基礎を学ぶために必要な語句の量をふやしている。推論の仕方について理解を深められている。 【思考力、判断力、表現力等】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	○	○	○	5
	「地図の想像力」 【知識及び技能】 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深める。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 「地図の想像力」 人と世界を結ぶことばの働きを理解する ・教材 教科書 国語便覧 「現代文キーワード読解」 ・一人1台端末の活用 等 生徒間の意見の共有・検討を一人1台端末を活用しておこなう			○ ○	「地図の想像力」 【知識及び技能】 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深められている。 【思考力、判断力、表現力等】 関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	○	○	○	6
	定期考査						○	○	○	1
	「物語という欲望」 【知識及び技能】 文や文章の効果的な接続の仕方について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、多面的・多角的な視点から評価する。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 「物語という欲望」 ことばによって語るといふ行為の意味を考える ・教材 教科書 国語便覧 「現代文キーワード読解」 ・一人1台端末の活用 等 生徒間の意見の共有・検討を一人1台端末を活用しておこなう			○ ○	「物語という欲望」 【知識及び技能】 文や文章の効果的な接続の仕方について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、多面的・多角的な視点から評価している。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	○	○	○	9
定期考査						○	○		1	
2 学 期	「ファンタジーワールドの誕生」 【知識及び技能】 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 人間、社会、自然について、文章の内容や解釈を異なる価値観と結びつけて、新たな視点から自分の考えを深める。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 「ファンタジーワールドの誕生」 多面的な視点から文章を捉える 偏見や先入観にとらわれない議論のあり方考える ・教材 教科書 国語便覧 「現代文キーワード読解」 ・一人1台端末の活用 等 生徒間の意見の共有・検討を一人1台端末を活用しておこなう			○ ○	「ファンタジーワールドの誕生」【知識及び技能】 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 人間、社会、自然について、文章の内容や解釈を異なる価値観と結びつけて、新たな視点から自分の考えを深めている。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	○	○	○	8
	「沖繩戦を聞く」 【知識及び技能】 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】	・指導事項 「沖繩戦を聞く」 多面的な視点から文章を捉える 偏見や先入観にとらわれない議論のあり方考える 多面的な視点から文章を捉える				「沖繩戦を聞く」 【知識及び技能】 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】				





# 高等学校 令和6年度（2学年用）教科

# 国語 科目 発展言語文化

教科： 国語 科目： 発展言語文化

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者： (1組：倉田) (2組：田中奈) (3組：倉田) (4組：田中奈) (5組：倉田) (6組：田中奈) (7組：倉田)

使用教科書： (「言語文化」(大修館書店) )

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 発展言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
		話・聞	書	読					
『伊勢物語』『あづま下り』 【知識・技能】 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解する。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 【思考力・判断力・表現力】 ・「読むこと」において、作品の内容や形式について、批評したり討論したりする。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 人との交わり ○古人の生活や文化について理解を深める。 ○古人にとっての歌の役割をとらえる。 ・教材 教科書 「カラー版新国語便覧」 「完全マスター古典文法」 「重要古文単語315」 補助教材プリント ・一人1台端末の活用 等	○	○		【知識・技能】 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思考力・判断力・表現力】 ・「読むこと」において、作品の内容や形式について、批評したり討論したりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	○	○	○	7
『唐宋八家文読本』『雑説』 【知識・技能】 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使う。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深める。 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉をとらえて他者や社会に意欲的に関わろうとする。	・指導事項 文学と社会 ○寓意を含む文章や、当時の世相を映した物語を読み、社会と文学との関わりを考える。 ・教材 教科書 「カラー版新国語便覧」 「精選漢文」 補助教材プリント ・一人1台端末の活用 等	○	○		【知識・技能】 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉をとらえて他者や社会に意欲的に関わろうとしている。	○	○	○	6
定期考査						○	○	○	1
「山月記」中島敦 【知識・技能】 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深める。 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉をとらえて他者や社会に意欲的に関わろうとする。	・指導事項 近代の小説(一) ○登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について考える。 ・教材 「近現代文学コレクション」 「カラー版新国語便覧」 補助教材プリント ・一人1台端末の活用 等	○	○		【知識・技能】 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉をとらえて他者や社会に意欲的に関わろうとしている。	○	○	○	12
定期考査						○	○	○	1





# 府中 高等学校 令和6年度(2学年用) 教科 地理歴史 科目 日本史探究

教科：地理歴史 科目：日本史探究 単位数：3 単位

対象学年組：第 2 学年 必修選択

教科担当者：必選講座 百瀬・洵

使用教科書：( 詳説日本史探究 山川出版社 )

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される主権者としての自覚を深める。

科目 日本史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される主権者としての自覚を深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	原始・古代の日本と東アジア 【知識及び技能】 旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解する 原始・古代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 自然環境と人間の生活との関わり、中国大陸・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する地方の諸勢力の成長と影響、東アジアとの関係の変化、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。	人類が日本列島で生活を営み始めた時代から平安時代までを扱い、原始・古代がどのような時代であったかを東アジア世界の動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにする	原始・古代の日本と東アジア 【知識及び技能】 旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解する 原始・古代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 自然環境と人間の生活との関わり、中国大陸・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する地方の諸勢力の成長と影響、東アジアとの関係の変化、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。	○	○	○	11
	定期考査			○	○	○	1
	古代の国家・社会の展望と画期 【知識及び技能】 国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解すること。 貴族政治の展開、平安期の文化、地方支配の変化や武士の出現などを基に、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 中国大陸・朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、主題を設定し、小国の形成と連合、古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現す	歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察する  小国の形成と連合、古代の国家の形成の過程について考察する	古代の国家・社会の展望と画期 【知識及び技能】 国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解すること。 貴族政治の展開、平安期の文化、地方支配の変化や武士の出現などを基に、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 中国大陸・朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、主題を設定し、小国の形成と連合、古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。 地方の諸勢力の成長と影響、東アジアとの関係の変化、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、古代の国家・社会の変容について、事象の意味	○	○	○	11

	ること。 地方の諸勢力の成長と影響、東アジアとの関係の変化、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。	や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。	○	○	○	11	
	定期考査		○	○	○	1	
2 学 期	中世への転換と歴史的環境 歴史資料と中世の展望 【知識及び技能】 貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解すること。 中世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現すること。 歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現すること。	平安時代末から戦国時代までを扱い、中世がどのような時代であったかを東アジアやユーラシアの動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにする	中世への転換と歴史的環境 歴史資料と中世の展望 【知識及び技能】 貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解すること。 中世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現すること。 歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現すること。	○	○	○	11
	定期考査			○	○	○	11
	定期考査			○	○	○	1
	中世の国家・社会の展望と画期 【知識及び技能】 武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 公武関係の変化、宋・元（モンゴル帝国）などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。	古代から中世への転換の理解や時代を通観する問いで表現した中世を展望する仮説を踏まえ、資料を扱う技能を活用し、中世の国家や社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、中世がどのような時代であったかを理解するとともに、思考力、判断力、表現力等の育成を図る	中世の国家・社会の展望と画期 【知識及び技能】 武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 公武関係の変化、宋・元（モンゴル帝国）などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。	○	○	○	11
定期考査			○	○	○	11	
定期考査			○	○	○	1	
	中世の国家・社会の展望と画期 【知識及び技能】 武家政権の変容、日明貿易の展開と琉球王国の成立、村落や都市の自立、多様な文化の形成や融合	古代から中世への転換の理解や時代を通観する問いで表現した中世を展望する仮説を踏まえ、資料を扱う技能を活用し、中世の国家や社会の展開について、事象の意味	中世の国家・社会の展望と画期 【知識及び技能】 武家政権の変容、日明貿易の展開と琉球王国の成立、村落や都市の自立、多様な文化の形成や融合などを基に、地域権力の成長、社				



3 学 期	<p>の目立、多様な文化の形成や融合などを基に、地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解すること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 社会や経済の変化とその影響、東アジアの国際情勢の変化とその影響、地域の多様性、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。</p>	<p>仕法の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、中世がどのような時代であったかを理解するとともに、思考力、判断力、表現力等の育成を図る</p>	<p>形成や融合などを基に、地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解すること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 社会や経済の変化とその影響、東アジアの国際情勢の変化とその影響、地域の多様性、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。</p>	○	○	○	11
	定期考査・解説			○	○	○	2
							合計 105

# 高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 地理歴史 科目 世界史基礎

教科： 地理歴史                      科目： 世界史基礎                      単位数： 2 単位  
 対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 7 組  
 教科担当者： （1組：辻）              （2組：辻）              （5組：辻）              （6組：辻）              （7組：辻）  
 使用教科書： （詳説世界史 世界史探究）  
 教科 地理歴史                      の目標：

- 【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 世界史基礎                      の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
地球環境からみる人類の歴史 <b>【知識及び技能】</b> 人類の誕生と地球規模での拡散・移動を基に、人類の歴史と地球環境との関わりを理解する。 <b>【思考力、判断力、表現力等】</b> 諸事象を捉えるための時間の尺度や、諸事象の空間的な広がりに着目し、主題を設定し、地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を考察し、表現する。	人類の誕生と地球規模での拡散・移動を基に、人類の歴史と地球環境との関わりを指導する。 ・教科書、図録、用語集の活用 ・一人1台端末の活用 パワーポイント作成	地球環境からみる人類の歴史 <b>【知識及び技能】</b> 人類の誕生と地球規模での拡散・移動を基に、人類の歴史と地球環境との関わりを理解できている。 <b>【思考力、判断力、表現力等】</b> 諸事象を捉えるための時間の尺度や、諸事象の空間的な広がりに着目し、主題を設定し、地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を考察し、表現できている。	○	○		6
古代文明の歴史的特質 <b>【知識及び技能】</b> 資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 オリент文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解する。 <b>【思考力、判断力、表現力等】</b> 古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現する <b>【学びに向かう力、人間性等】</b> 諸地域の歴史的特質を構造的に捉えることができることに気付く。	生業、身分・階級、王権、宗教、文化・思想などに関する資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、生きる力を身に付けることができるよう指導する。 ・教科書、図録、用語集の活用 ・一人1台端末の活用 パワーポイント作成	古代文明の歴史的特質 <b>【知識及び技能】</b> 資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 オリент文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解できている。 <b>【思考力、判断力、表現力等】</b> 古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現できている <b>【学びに向かう力、人間性等】</b> 諸地域の歴史的特質を構造的に捉えることができることに気づいている。	○	○	○	15
定期考査			○	○		1

1 学期

<p>諸地域の歴史的特質</p> <p>【知識及び技能】      秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家、西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成を基に諸地域の歴史的特質を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】      東アジアと中央ユーラシア、南アジアと東南アジア、西アジアと地中海周辺のそれぞれについての諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、を多面的・多角的に考察し、表現する</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】      国家と宗教の関係や、文化や宗教が人々の暮らしに与えた影響、異なる宗教の共存に気付く。</p>	<p>秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家、西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成を基に諸地域の歴史的特質を指導する。</p> <p>・教科書、図録、用語集の活用</p> <p>・一人1台端末の活用      パワーポイント作成</p>	<p>諸地域の歴史的特質</p> <p>【知識及び技能】      秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家、西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成を基に諸地域の歴史的特質を理解できている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】      東アジアと中央ユーラシア、南アジアと東南アジア、西アジアと地中海周辺のそれぞれについての諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、を多面的・多角的に考察し、表現できている</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】      国家と宗教の関係や、文化や宗教が人々の暮らしに与えた影響、異なる宗教の共存に気づいている。</p>	○	○	○	15
<p>定期考査</p>			○	○		1

2 学期	<p>諸地域の歴史的特質</p> <p>【知識及び技能】 秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家、西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成を基に諸地域の歴史的特質を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 東アジアと中央ユーラシア、南アジアと東南アジア、西アジアと地中海周辺のそれぞれについての諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、を多面的・多角的に考察し、表現する</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 国家と宗教の関係や、文化や宗教が人々の暮らしに与えた影響、異なる宗教の共存に気付く。</p>	<p>秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家、西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成を基に諸地域の歴史的特質を指導する。</p> <p>・教科書、図録、用語集の活用</p> <p>・一人1台端末の活用 パワーポイント作成</p>	<p>諸地域の歴史的特質</p> <p>【知識及び技能】 秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家、西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成を基に諸地域の歴史的特質を理解できている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 東アジアと中央ユーラシア、南アジアと東南アジア、西アジアと地中海周辺のそれぞれについての諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、を多面的・多角的に考察し、表現できている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 国家と宗教の関係や、文化や宗教が人々の暮らしに与えた影響、異なる宗教の共存に気づいている。</p>	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
	<p>【知識及び技能】 資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けること。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 諸地域の交流・再編に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現する。</p>	<p>交易の拡大、都市の発達、国家体制の変化、宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播などに関する資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して指導する。</p>	<p>【知識及び技能】 資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けること。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 諸地域の交流・再編に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現できている。</p>	○	○		5
3 学期	<p>結び付くユーラシアと諸地域</p> <p>【知識及び技能】 西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開、宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 諸地域へのイスラームの拡大の要因、ヨーロッパの社会や文化の特色、中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現する</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 国家と宗教の関係や、文化や宗教が人々の暮らしに与えた影響、異なる宗教の共存に気付く。</p>	<p>西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開、宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に指導する。</p> <p>・教科書、図録、用語集の活用</p> <p>・一人1台端末の活用 パワーポイント作成</p>	<p>結び付くユーラシアと諸地域</p> <p>【知識及び技能】 西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開、宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解できている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 諸地域へのイスラームの拡大の要因、ヨーロッパの社会や文化の特色、中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現できている</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 国家と宗教の関係や、文化や宗教が人々の暮らしに与えた影響、異なる宗教の共存に気づいている。</p>	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
							合計



府中 高等学校 令和6年度

教科

公民

科目

公共

教科： 公民

科目： 公共

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者： 江川

使用教科書： 『高等学校 公共』（第一学習社）

教科 公民

の目標：

【知識及び技能】社会的な事象を理解する上での基礎的な知識および資料を読み取る技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】社会的課題に対して、資料やデータに基づき、自分なりの考えを持つ力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】自分とは立場や環境が異なる人々の視点を想像しつつ、社会的な課題について考える姿勢を身に付ける。

科目 公共

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の社会における社会制度などの背景にある思想や理念を理解した上で、歴史的な資料や法的な文章、経済指標などのデータを正確に読み取る力を身に付ける。	現代の社会的課題に対して、法的な文章や経済指標、過去の思想家の主張などを踏まえた上で自分なりの意見を持つことができる。	社会的な課題に直面している人々の立場に立ち、多角的・多面的な視点で物事を捉えようとする姿勢を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 公共的な空間をつくる私たち 社会に生きる私たち 個人の尊厳と自主・自律 多様性と共通性 【知識及び技能】 過去の哲学者や心理学者の主張を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 自分自身の感覚と提示された概念の関連性を表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	・青年期の成立および解釈を通して、現代社会における青年期の意義を理解する。 ・実体験を通じ、青年期における心理的な変化を考え、青年期における課題の重要性について理解する。 ・青年期における自己形成の過程を理解し、哲学者の視点を通して「自分らしさ」について考える。	【知識・技能】 過去の哲学者や心理学の主張を理解する。 【思考・判断・表現】 自分自身の感覚と提示された概念の関連性を表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	○	○	○	6
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 人間としてのあり方生き方についての探求 【知識及び技能】 過去の哲学者の思想を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 思想がどのように現代の社会に反映されているかを考え、具体例を例示することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	・ドイツ観念論の思想を通じ、多様な「自由」の定義について考察する。 ・社会における「善」のあり方を考えると共に、現代社会の社会制度の背景となる思想を理解する。	【知識・技能】 過去の哲学者の思想を理解する。 【思考・判断・表現】 思想がどのように現代の社会に反映されているかを考え、具体例を例示することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	○	○	○	5
	定期考査			○	○	○	2
	現代の国家と民主政治 人権保障の発展と現代社会 【知識及び技能】 人権の概念が確立されていった歴史を資料を通して理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 思想家の主張について、比較検討をすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	・民主政治の誕生の歴史を通して、人権の意義や国家のあり方について考える。 ・社会契約説の思想を理解し、現代の政治制度とのつながりについて考える。 ・歴史的な文書を通じ、人権の発展について考え、現代における国際化した人権の課題について考える。	【知識・技能】 人権の概念が確立されていった歴史を資料を通して理解する。 【思考・判断・表現】 思想家の主張について、比較検討をすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	○	○	○	6
	日本国憲法と国民生活 基本的人権の保障 人権の広がり 選挙と政党 【知識及び技能】 判例を通して、人権の意義を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 判例などの資料から人権保障の考え方を読み取ることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	・基本的人権の保障について、判例や事例を通して理解する。 ・「新しい人権」をめぐる議論について考える。 ・日本の選挙の仕組みと課題、その課題が生まれた背景について理解する。	【知識・技能】 判例を通して、人権の意義を理解する。 【思考・判断・表現】 判例などの資料から人権保障の考え方を読み取ることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	○	○	○	7
定期考査			○	○	○	2	
	日本国憲法と国民生活 平和主義と日本の安全 【知識及び技能】 9条の理念および日本の平和安全	・9条の解釈をめぐる議論を通して、日本の平和主義について考える。	【知識・技能】 9条の理念および日本の平和安全法制の現状を理解する。 【思考・判断・表現】				



高等学校 令和6年度

教科

数学

科目

数学Ⅱ

教科：数学

科目：数学Ⅱ

単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 1組～7組

教科担当者：(12組：畑中・遠藤・船木) (34組：長谷川・船木・西塚) (56組：長谷川・遠藤・西塚) (7組：長谷川・西塚)

使用教科書：(NEXT 数学Ⅱ 【数研出版】)

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】数学の基本的概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学的に解釈し表現・処理する技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】数学を活用して、事象および事象間の関係を論理的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】積極的に数学を活用する態度、問題解決の過程を振り返り評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅱ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
数の範囲を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の計算ができるようにする。また、複素数を用いて、1次方程式やその解についてより一般的に考察できるようにする。	第2章 第1節 複素数と2次方程式の解	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎複素数に関する用語の定義および複素数の相等の定義を理解している。</li> <li>○複素数の加法、減法、乗法の計算ができる。</li> <li>◎共役複素数の定義を理解し、それを利用して複素数の除法の計算ができる。</li> <li>◎負の数の平方根について理解し、それらを含む式の計算ができる。</li> <li>◎複素数の範囲で2次方程式を解くことができる。</li> <li>◎判別式を利用して、2次方程式の解が判別できる。</li> <li>◎解と係数の関係を利用して、解の和や積、対称式の値を求めることができる。</li> <li>◎2次方程式の解の条件から、解と係数の関係を利用して係数を求めることができる。</li> <li>◎2次方程式の解を利用して、2次式を因数分解できる。</li> <li>◎2数を解にもつ2次方程式を作ることができる。</li> <li>○和と積がわかっている2数を求めることができる。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○負の数の平方根の積について、正の数の平方根で成り立っていた計算法則が成り立たないことを考察できる。</li> <li>◎2次方程式の解について、2次関数のグラフとの関係から多面的に考察できる。</li> <li>◎解と係数の関係を活用して、2次方程式の解の条件を考察することができる。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○数の範囲を実数から複素数へ拡張することについて、有理数から実数に拡張したことと関連させ、考察しようとする。</li> <li>○複素数が四則について閉じていることなど、複素数の性質を、実数の性質と関連させながら理解し、考察しようとする。</li> <li>○これまで「解なし」としていた2次方程式が、複素数の範囲では解をもつことに興味をもつ。</li> <li>○対称式が基本対称式で表されることに興味をもち、様々な対称式について基本対称式で表そうとする。</li> <li>◎2次方程式の解の条件について、解と係数の関係以外にも、2次関数のグラフを用いて考察し、それらを比較して関係性を探ろうとする。</li> </ul>	○	○	○	8



<p>高次方程式を、因数分解などの方法でより低い次数の方程式に帰着することで解いたり、その解について考察したりできるようにする。</p>	<p>第2章 第2節 高次方程式</p>	<p><b>【知識・技能】</b>  ○剰余の定理を利用して、多項式を1次式で割った余りを求めたり、余りから係数を求めたりできる。  ○因数定理について理解し、それを利用して高次式を因数分解できる。  ○因数分解を利用して、高次方程式を解くことができる。  ○高次方程式の2重解、3重解について理解している。  ○高次方程式の虚数解から、方程式の係数を決定することができる。  <b>【思考・判断・表現】</b>  ○割り算についての等式を活用して、多項式を<math>ax+b</math>で割った余りについて考察できる。  ○剰余の定理を活用し、多項式を2つの1次式で割った余りから、2次式で割った余りを求めることができる。  ○1の3乗根について、その定義を正確に理解し、性質を証明できる。  ○高次方程式について、いくつかの解法のうちどれを用いるか適切に判断して解くことができる。  ○高次方程式が虚数解<math>a+bi</math>を解にもてば、<math>a-bi</math>も解にもつことを利用できる。  <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b>  ○多項式を1次式で割る計算に、組立除法を積極的に利用しようとする。  ○虚数解から方程式の係数を決定する問題について、いくつかの方法で解き、それらを比較・検討しようとする。</p>	○	○	○	9

<p>定期考査</p>			○	○		1
<p>座標や式を用いて、点や直線についてその性質や関係を数学的に表現できるようにし、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p>	<p>第3章 第1節 点と直線</p>	<p><b>【知識・技能】</b>                  ◎数直線上の2点間の距離を求めることができる。                  ◎数直線上の内分点、外分点の座標を求めることができる。                  ○座標平面上の2点間の距離を求めることができる。                  ◎座標平面上の線分の内分点、外分点の座標を求めることができる。                  ◎三角形の重心の座標を求めることができる。                  ◎x, yの1次方程式が表す直線をかくことができる。                  ○x軸に垂直な直線は、<math>y=mx+n</math>の形に表せないことを理解している。                  ◎与えられた条件を満たす直線の方程式を求めることができる。                  ◎2直線の平行・垂直条件を理解し、それを利用できる。                  ○図形<math>F(x, y)=0</math>が点<math>(s, t)</math>を通ることを<math>F(s, t)=0</math>として処理できる。                  ◎点と直線の公式を理解し、それを利用して距離を求めることができる。                  ○2直線の交点を通る直線の方程式を、<math>kF(x, y)+G(x, y)=0</math>の形を利用して求めることができる。  <b>【思考・判断・表現】</b>                  ◎座標平面上の2点間の距離を活用して、点の座標を定めたり、図形の性質を証明したりすることができる。                  ○内分点、外分点の座標を用いて、点対称であることを数式で表現できる。                  ○通る2点がわかっている直線の方程式を、傾きと通る1点がわかっている直線の方程式を利用して考察できる。                  ◎直線に関して対称な点の座標について、図形の条件を式で表現し、考察することができる。                  ○<math>kF(x, y)+G(x, y)=0</math>の形の方程式が、2直線の交点を通る直線を表す理由を理解し、説明することができる。  <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b>                  ○数直線上の外分点について、内分点と統一して捉えようとする。                  ○座標平面を用いて図形の性質を一般的に証明する際、一般性を崩さないように点の座標を設定することや、座標軸のとり方によらず証明できることなどに興味をもち、様々な座標や座標軸の設定法を試そうとする。                  ○三角形の3本の中線が1点で交わることを座標を用いて証明できることに興味をもつ。                  ○x, yの方程式が座標平面上で図形を表すということの意味を理解しようとし、点の集合が図形を表すことを正しく認識する。                  ○直線の方程式の公式を、直線が1つに定まる条件としてとらえようとする。                  ○2直線の関係を、傾きに注目して考察しようとする。</p>	○	○	○	7

<p>座標や式を用いて、円についてその性質を数学的に表現できるようにし、直線との関係、円どうしの関係など事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>図形を与えられた条件を満たす点の集合として認識し、軌跡の方程式が求められるようにする。また、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解する。さらに、軌跡や領域を事象の考察に活用できるようにする。</p>	<p>第3章 第2節 円</p> <p>第3章 第3節 軌跡と領域</p>	<p><b>【知識・技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中心の座標と半径から円の方程式を求めることができる。また、円の方程式から中心の座標と半径を求めることができる。</li> <li>○<math>x, y</math>の2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を調べることができる。</li> <li>○3点を通る円の方程式を求めることができる。</li> <li>○円と直線の共有点の座標を求めることができる。</li> <li>○円の接線の公式を理解し、接線の方程式を求めることができる。</li> <li>○円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。</li> <li>○2つの円の位置関係を、中心間の距離と半径の関係から調べることができる。</li> <li>○2つの円の位置関係と、中心間の距離と半径の関係から、円の方程式を求めることができる。</li> <li>○2円の交点を通る図形の方程式を、<math>kF(x, y) + G(x, y) = 0</math>の形を利用して求めることができる。</li> <li>○軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。</li> <li>○直線を境界線とする領域を図示することができる。</li> <li>○円を境界線とする領域を図示することができる。</li> <li>○連立不等式の表す領域を図示することができる。</li> </ul> <p><b>【思考・判断・表現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○2点を直径の両端とする円について、中心と半径に着目して、方程式を求めることができる。</li> <li>○円の方程式が<math>x, y</math>の2次方程式で表されることを理解し、<math>x, y</math>の2次方程式が、常に円を表すとは限らないことを考察・説明できる。</li> <li>○円の方程式を決定する際、問題に応じて適切な式の形を判断して使うことができる。</li> <li>○円と直線の共有点の個数を、2次方程式の実数解の個数から考察することができる。</li> <li>○円と直線の共有点の個数を、中心と直線の距離から考察することができる。</li> <li>○2つの円の共有点について、2つの円の方程式を適切に変形して考察することができる。</li> <li>○直線や円などを、条件を満たす点全体の集合として考えることができる。</li> <li>○軌跡を求める手順について理解し、特に逆を確認する理由を集合と関連付けて考察できる。</li> <li>○不等式が表す領域を、不等式を満たす点全体の集合として考えることができる。</li> </ul> <p><b>【主体的に学習に取り組む態度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○3点を通る円が1つに定まるということに興味をもち、三角形の外接円や、2点を通る円の集まりなどを考察することで理解しようとする。</li> <li>○円と直線の共有点の個数と、中心と直線の距離の関係について、図を複数かくなどして自ら見出そうとする。</li> <li>○円の接線を求める様々な方法を理解し、それぞれの関係や、どの方法を用いるかなどを積極的に考察しようとする。</li> <li>○2つの円の方程式から導かれる1次方程式について、それが表す直線がどのようなものか考察しようとする。</li> <li>○軌跡と領域について、いずれも条件を満たす点全体の集合として捉え、これらを統一的に考察しようとする。</li> </ul>	○	○	○	8

<p>定期考査</p>			○	○		1
<p>角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について理解し、それらを多面的に考察できるようにする。</p>	<p>第4章 第1節 三角関数</p>	<p>【知識・技能】  ◎一般角について理解し、一般角を表す動径を円周角として理解し、動径の表す角を<math>\alpha + 360^\circ \times n</math>と表したりできる。  ◎弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算ができる。また、動径が表す角について弧度法で考えることができる。  ◎扇形の弧の長さや面積を、公式を用いて求めることができる。  ◎弧度法で表された角の三角関数の値を、三角関数の定義によって求めることができる。  ◎三角関数の相互関係を理解し、それらを利用して様々な値を求めたり、式変形をしたりすることができる。  ◎<math>\theta + 2n\pi</math>や<math>-\theta</math>などの公式を理解し、それらを用いて三角関数の値を求めることができる。  ◎周期性や漸近線など、三角関数のグラフの特徴を理解している。  ◎<math>y = \sin \theta</math>のグラフをもとにした、いろいろな三角関数のグラフのかき方および周期の求め方を理解している。  ◎三角関数を含む方程式を解くことができる。  ◎三角関数を含む不等式を解くことができる。  【思考・判断・表現】  ◎弧度法を、弧の長さで角を測る方法として理解し、考察することができる。  ◎三角関数の値の符号について考察できる。また、値の増減についても考察し、それを適切に表現できる。  ◎3つある三角関数の相互関係のどれを用いるかや、式変形の方法を、その理由とともに適切に判断して問題を解決することができる。  ◎三角関数の性質を、単位円を用いて考察することができる。  ◎複数ある三角関数の性質について、適切なものを判断して利用し、三角関数の値を求めることができる。  ◎単位円上の点の動きから、三角関数のグラフを考えることができる。  ◎<math>y = \sin \theta</math>と<math>y = \cos \theta</math>のグラフが同じ形の曲線であることについて、既習の三角関数の性質を用いて考察し、説明することができる。  ◎<math>y = \sin(k\theta - \alpha)</math>の形の関数の式を適切に変形して、グラフや周期を考察することができる。  ◎<math>\sin(\theta + \alpha) = k</math>の形の方程式について、<math>\theta + \alpha = t</math>とおいたときの<math>t</math>の範囲にも注意して解くことができる。  ◎三角関数を含む関数について、<math>\sin \theta = t</math>とおいたときの<math>t</math>の範囲にも注意して最大値・最小値を求めることができる。  【主体的に学習に取り組む態度】  ◎一般角を、動径とともに考察しようとする。  ◎三角比の定義を一般化して、三角関数の定義を考察しようとする。  ◎三角比の相互関係について、既習である円</p>	○	○	○	10

		<p>の方程式と関連付けて、多面的に考察しようとする。          ○三角関数のグラフについて、コンピュータを用いるなどして積極的に考察しようとする。          ○周期関数や奇関数、偶関数に興味をもち、その性質を調べようとする。          ○三角関数を含む不等式について、単位円だけでなく三角関数のグラフも利用するなどして、多面的に考察しようとする。          ○三角関数を含む関数で<math>\sin \theta = t</math>とおいたとき、<math>\theta</math>の動きと<math>t</math>の動きを関連付けて、関数の値の変化を考察し、理解しようとする。</p>				
<p>加法定理および加法定理から導かれる様々な定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p>	<p>第4章 第2節 加法定理</p>	<p>【知識・技能】          ◎加法定理を利用して、正弦、余弦の値を求めることができる。          ○加法定理を利用して、正接の値を求めることができる。          ◎正接の加法定理を利用して、2直線のなす鋭角を求めることができる。          ◎2倍角の公式を利用して、三角関数の値を求めることができる。          ◎半角の公式を利用して、三角関数の値を求めることができる。          ◎2倍角の公式を利用して、やや複雑な三角関数を含む方程式・不等式を解くことができる。          ○三角関数の合成をすることができる。          【思考・表現・判断】          ○<math>\cos(\alpha + \beta)</math>の加法定理から<math>\cos(\alpha - \beta)</math>の加法定理を導いた方法を参考に、<math>\sin(\alpha + \beta)</math>の加法定理から<math>\sin(\alpha - \beta)</math>の加法定理を導くことができる。          ○座標平面上の原点を中心として回転した点の座標について、加法定理を用いて考察できる。          ○2倍角の公式を利用して、やや複雑な三角関数を含む方程式・不等式の角を統一して考察することができる。          ◎三角関数の合成を用いて式を変形することで、既習の形に帰着し、関数の最大値・最小値を求めたり、方程式を解いたりすることができる。          【主体的に学習に取り組む態度】          ○加法定理を利用して、様々な公式を導出・証明しようとする。          ○同じ周期をもつ2つの関数<math>y = \sin x</math>と<math>y = \cos x</math>の和について、そのグラフが正弦曲線になることに興味をもち、式変形やグラフなど、様々な方法で考察しようとする。</p>	○	○	○	10

定期考査			○	○		1
指数を実数まで拡張する意義を理解し、指数関数を事象の考察に活用できるようにする。	第5章 第1節 指数関数	<p>【知識・技能】</p> <p>◎指数が整数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を用いた計算をすることができる。</p> <p>◎累乗根の定義や性質を理解し、累乗根の値を求めたり計算したりすることができる。</p> <p>◎指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を用いた計算をすることができる。</p> <p>◎指数関数のグラフの特徴を理解し、グラフをかくことができる。</p> <p>◎指数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○正の数の累乗根がただ1つ存在することを、グラフによって考察することができる。</p> <p>○累乗根の性質の証明の1つを参考に、別の性質を証明することができる。</p> <p>○指数が無理数の場合の累乗の意味を理解することができる。</p> <p>○底の違いによって指数関数のグラフがどのように変わるかを考察し、適切に説明することができる。</p> <p>◎指数関数の増減によって、数の大小関係を考察することができる。</p> <p>◎<math>ax &gt; 0</math>に注意して、置き換えによって既知の問題に帰着することで、指数方程式・指数不等式を解くことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○0乗、負の整数乗、分数乗は、指数法則が成り立つように定義されていることを理解し、その定義について考察しようとする。</p> <p>○指数法則を用いた計算について、いくつかの方法を試し、よりよい計算方法を検討しようとする。</p> <p>○負の数の<math>n</math>乗根に興味をもち、その値が存在するかどうかも含めて具体的に考察しようとする。</p> <p>○指数関数のグラフの概形を、点をプロットしてかこうとする意欲がある。</p>	○	○	○	9

<p>対数の定義とその性質を理解し、対数関数、特に常用対数を事象の考察に活用できるようにする。</p>	<p>第5章 第2節 対数関数</p>	<p><b>【知識・技能】</b>  ◎指数と対数を相互に書き換えることができる。  ◎対数の定義を理解し、対数の値を求めることができる。  ◎対数の性質に基づいて、種々の対数の値の計算ができる。  ◎底の変換公式を適用することができる。  ◎対数関数のグラフの特徴を理解し、グラフをかくことができる。  ◎対数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。  ◎正の数を<math>a \times 10^n</math>の形に表して、常用対数表を用いて対数の値を求めることができる。  ◎桁数や小数第何位に初めて0でない数字が現れるかを、常用対数を用いて求めることができる。  <b>【思考・判断・表現】</b>  ◎対数の値が存在することを、グラフによって考察することができる。  ◎指数法則を利用して、対数の性質を証明することができる。  ◎対数関数のグラフについて、その特徴を指数関数との関連など多面的にみて、考察・説明ができる。  ◎対数関数の増減によって、数の大小関係を考察することができる。  ◎対数関数を含む少し複雑な方程式・不等式を解くことができる。  ◎おき換えによって既知の問題に帰着することで、対数関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。  ◎桁数や小数首位が第n位の数を、不等式で表現することができる。  <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b>  ◎指数と対数の関係に興味をもち、性質や計算において、その関係を見出そうとする。  ◎対数関数のグラフの概形を、点をプロットしてかこうとする意欲がある。  ◎対数関数を含む方程式・不等式について、真数が正であるという条件について、その解との関係をもとに考察しようとする。  ◎常用対数と<math>a \times 10^n</math>の形の表示とを、常に相互に関連付けて考えようとする。</p>	○	○	○	10

<p>定期考査</p>			○	○		1
<p>微分係数や導関数の意味について理解し、多項式で表された関数の導関数が求められるようにする。また、関数のグラフの接線が求められるようにする。</p>	<p>第6章 第1節 微分法と導関数</p>	<p>【知識・技能】  ◎平均変化率の定義を理解し、それを求めることができる。  ◎関数の極限値の意味を直感的に理解し、それを求めることができる。  ◎定義に従って関数の微分係数を求めることができる。  ◎微分係数の図形的な意味を理解し、接線の傾きを求めることができる。  ◎導関数の意味を理解している。  ◎定義に従って関数の導関数を求めることができる。  ◎公式を用いて関数の導関数を求めることができる。  ◎導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができる。  ◎導関数を利用して微分係数が求められることを理解し、それを求めることができる。  ◎接点のx座標が与えられたとき、接線の方程式を求めることができる。  【思考・判断・表現】  ◎導関数を表す種々の記号を理解し、それらを適切に使って表現することができる。  ◎x以外の文字についての関数においても、導関数を求めることができる。  ◎定数と変数を区別して関数を微分することができる。また、それを利用して、微分係数の値などから関数を決定することができる。  ◎曲線外の点Cから曲線に接線を引くとき、接点Aにおける接線が点Cを通ると読み替えて、接線の方程式を求めることができる。  【主体的に学習に取り組む態度】  ◎図をかいたりコンピュータを利用したりするなどして、微分係数の図形的な意味を積極的に考察しようとする。  ◎関数<math>x^n</math>の導関数について、二項定理を用いた証明に興味をもち、考察しようとする。  ◎接線の方程式について、微分係数だけでなく、2次方程式が重解をもつという条件も合わせ、多面的に考察しようとする。</p>	○	○	○	11



3  
学  
期

導関数を用いて、関数の値の増減が調べられるようにする。また、それを用いて関数のグラフをかいたり、さらにグラフを様々な事象の考察に活用したりできるようにする。  
不定積分や定積分について理解し、それらの有用性を認識するとともに、定積分を用いてグラフで囲まれた図形の面積が求められるようにする。

第6章 第2節  
関数の値の変化

第6章 第3節  
積分法

【知識・技能】

- ◎導関数を利用して、関数の増減を調べることができる。
  - ◎導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。
  - ◎関数の極値が与えられたとき、関数を決定することができる。
  - ◎導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。
  - 原始関数の定義および関数の原始関数が無限にあることを理解している。
  - 不定積分の表し方を理解し、積分定数を漏らさず正しく表すことができる。
  - 不定積分の性質を用いて、関数の不定積分を求めることができる。
  - ◎定積分の定義を理解し、定積分を計算することができる。
  - 定積分の様々な性質を理解し、それを利用して定積分を計算することができる。
  - 上端が $x$ である定積分を、 $x$ で微分することができる。
  - ◎グラフと $x$ 軸の間の面積を、定積分で表して求めることができる。
  - ◎2曲線の間の面積を、定積分で表して求めることができる。
  - ◎絶対値のついた関数の定積分の計算方法を理解している。
  - 3次曲線とその接線で囲まれた部分の面積を求めることができる。
- 【思考・判断・表現】
- 関数の増減を接線の傾きから考察することができる。
  - $f'(a)=0$ は、 $f(a)$ が極値であるための必要条件ではあるが、十分条件ではないことを理解し、係数決定の際に逆を確認する意味について適切に説明できる。
  - 導関数を活用して応用問題を考察できる。
  - ◎方程式の実数解の個数を、関数のグラフと $x$ 軸の共有点の個数に読み替えて考察できる。
  - ◎不等式 $f(x) \geq 0$ を関数 $y=f(x)$ の最小値が0以上と読み替えて、不等式を証明することができる。
  - 積分変数が何であるかに注意して、不定積分を正しく表現し、計算することができる。
  - ◎積分法が微分法の逆演算であることを利用して、与えられた条件を満たす関数を不定積分を用いて求めることができる。
  - ◎定積分は定数であることを理解し、その理由を説明できる。また、それを利用して、定積分を含む関数を求めることができる。
  - ◎上端が $x$ である定積分を、 $x$ の関数と捉えて問題を解決することができる。
  - 定積分を図形の面積とみることで、定積分の性質を図形的に考察し、説明することができる。
  - 絶対値のついた関数の定積分を、図形の面積とみることができる。
  - 放物線と直線の交点の座標が複雑な値であるとき、放物線と直線で囲まれた部分の面積を、定積分の公式を利用するなどして、工夫して求める方法を考察することができる。
  - 微分や定積分の計算で、 $(x+a)^n$ の導関数や不定積分の公式を利用するなどして、計算を工夫して行う方法を考察することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- 4次関数についても、3次関数と同様な方法で増減や極値について調べたり、グラフをかいたりしようとする。
- 最大値、最小値の条件から定義域を自由に

		定め、それらから一般的な性質を導き出そうとする。 ○数学の事象や日常の事象について、関数を用いて解決しようとする。 ○積分法が微分法の逆演算であることから、不定積分を求めたり、不定積分の公式が成り立つことを確かめたりしようとする。 ○定積分の性質を、定積分の定義から証明しようとする。 ○面積 $S(x)$ が関数 $f(x)$ の原始関数の1つであ				
定期考査			○	○		1
						合計
						105

高等学校 令和6年度

教科

数学

科目

数学B

教科：数学

科目：数学B

単位数：1 単位

対象学年組：第2学年 1組～7組

教科担当者：(12組：畑中・麻生・井部) (34組：井部・高橋・長谷川) (56組：井部・麻生・長谷川) (7組：畑中・麻生)

使用教科書：(NEXT 数学B 【数研出版】)

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】数学の基本的概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学的に解釈し表現・処理する技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】数学を活用して、事象および事象間の関係を論理的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】積極的に数学を活用する態度、問題解決の過程を振り返り評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学B

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	第2章 第1節 確率分布	<b>【知識・技能】</b> ○確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。 ○簡単な試行について、確率変数の確率分布を求めることができる。 ○確率変数の期待値を求めることができる。 ○確率変数Xについて、 $aX+b$ も確率変数であることを理解し、その期待値を公式を用いて求めることができる。 ○確率変数Xについて、 $X^2$ も確率変数であることを理解し、その期待値を求めることができる。 ○確率変数の分散、標準偏差を、定義から求めることができる。また、分散と期待値の公式を用いて求めることができる。 ○確率変数 $aX+b$ の分散、標準偏差を、公式を用いて求めることができる。 ○同時分布の意味を理解し、2つの確率変数の同時分布を求めることができる。 ○確率変数の和の期待値を、公式を用いて求めることができる。 ○2つの確率変数が独立であることについて、その意味を正確な定義とともに理解している。 ○独立な2つの確率変数の積の期待値を、公式を用いて求めることができる。 ○独立な2つの確率変数の和の分散を、公式を用いて求めることができる。 ○3つ以上の独立な確率変数の和や積の期待値、分散を、公式を用いて求めることができる。 <b>【思考・判断・表現】</b> ○確率変数の分散、標準偏差の意味を理解し、分布の特徴について判断することができる。 ○具体的な事象から確率変数を求め、その期待値について考察することができる。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ○確率変数の期待値、分散に関する種々の公式を、その定義や既知の公式を用いて導こうとする。 ○確率変数 $aX+b$ の期待値について、公式を用いる方法と用いない方法を比較して検討しようとする。 ○2つの確率変数の確率分布が等しいことに興味をもち、その意味を解釈しようとする。 ○2つの確率変数の和や積の期待値、分散に関する種々の公式を、確率変数が独立であるかどうかに関心しながら導こうとする。	○	○	○	10
	問題演習			○	○		1
	確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	第2章 第1節 確率分布	<b>【知識・技能】</b> ○反復試行の結果を二項分布と捉え、記号で表すことができる。 ○二項分布に従う確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。 ○確率密度関数や分布曲線の定義を理解し、連続型確率変数について、確率を求めることができる。 ○正規分布曲線の特徴を理解している。 ○一般の正規分布に従う確率変数を標準正規分布に従う確率変数に変換することができる。 ○標準正規分布に従う確率変数について、正規分布表を用いて確率を求めることができる。 ○一般の正規分布に従う確率変数について、正規分布表を用いて確率を求めることができる。 ○二項分布を正規分布で近似して、確率を求めることができる。 ○一般の連続型確率分布に従う確率変数について、定積分を用いて期待値と分散を求めることができる。 <b>【思考・表現・判断】</b> ○具体的な事象を二項分布として捉え、考察することができる。 ○標準正規分布の期待値、分散について、既知の公式を用いて証明することができる。 ○標準正規分布に従う確率変数の確率について、分布曲線の特徴に関連付けて説明できる。				

2 学期			<p>母集団の平均値と標準偏差を説明できる。</p> <p>○正規分布に従う確率変数の確率についての等式を、言葉で正確に表現することができる。</p> <p>◎正規分布を活用して現実のデータについて考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○連続型確率変数について、離散型確率変数との違いに注目して捉えようとする。</p> <p>○現実のデータが正規分布に近い分布になることがあることに興味をもち、様々なデータについて考察しようとする。</p> <p>○二項分布について、試行の回数nを大きくしたときの分布曲線の変化をコンピュータで見るなどして、正規分布に近づいていく様子を自ら確かめようとする。</p>	○	○	○	10
定期考査				○	○		1
3 学期	母集団と標本、標本調査について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。	第2章 第2節 統計的な推測	<p>【知識・技能】</p> <p>◎全数調査と標本調査について理解している。</p> <p>◎無作為標本の抽出ができる。</p> <p>◎母集団分布について理解し、母平均や母標準偏差を求めることができる。</p> <p>○標本平均が確率変数であることを理解している。</p> <p>◎標本平均の期待値と標準偏差を求めることができる。</p> <p>◎標本平均の分布を正規分布で近似して確率を求めることができる。</p> <p>◎標本比率が二項分布に従う仕組みを理解し、正規分布で近似することで標本比率についての確率を求めることができる。</p> <p>○信頼区間の意味を正確に理解している。</p> <p>◎母平均に対する信頼区間を求めることができる。</p> <p>◎母比率に対する信頼区間を求めることができる。</p> <p>◎仮説検定の意味を理解し、正規分布を用いた仮説検定ができる。</p> <p>◎棄却域を求める方法で仮説検定ができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○適切な無作為抽出の方法について理解し、不適切な抽出方法について、その理由を説明できる。</p> <p>○標本の大きさnを大きくしたとき、標本平均がどのような分布になるか、直感的に理解した上で、標準偏差の式と関連付けて説明することができる。</p> <p>◎大数の法則について理解し、標本の大きさnが大きくなるときの標本平均の分布の変化の様子について説明できる。</p> <p>○信頼度95%の信頼区間の求め方やその意味をもとに、信頼度99%の信頼区間を求めることができる。また、その意味について信頼区間の幅をもとに説明することができる。</p> <p>◎片側検定と両側検定の違いを理解し、どちらの検定をするか正しく判断できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○大数の法則に興味をもち、標本の大きさnが大きくなるときの分布曲線の変化を、コンピュータなどを用いて積極的に調べようとする。</p> <p>○母平均や母比率の推定について、信頼区間の幅と標本の大きさや信頼度との関係を考察し、それをもとに実際に適切な推定を行おうとする。</p> <p>○仮説検定によって様々な判断ができることに興味をもち、現実の問題の解決に役立てようとする。</p>	○	○	○	12
定期考査				○	○		1
							合計 35

高等学校 令和6年度

教科

数学

科目 数学C

教科：数学

科目：数学C

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 3 組～ 5 組

教科担当者：（3組：井部・遠藤）（4組：遠藤・畑中）（5組：井部）

使用教科書：（NEXT 数学C 【数研出版】）

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】数学の基本的概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学的に解釈し表現・処理する技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】数学を活用して、事象および事象間の関係を論理的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】積極的に数学を活用する態度、問題解決の過程を振り返り評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学C

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。	第1章 第1節 ベクトルとその演算	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○有向線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解している。</li> <li>○ベクトルの相等や逆ベクトルの定義を理解し、図の中から探すことができる。</li> <li>○ベクトルの和の定義を理解し、それを図示できる。</li> <li>○ベクトルの和の計算ができる。</li> <li>○ベクトルの差の定義を理解し、それを図示できる。</li> <li>○ベクトルの差の計算ができる。</li> <li>○ベクトルの実数倍の定義を理解し、式で表現できる。</li> <li>○ベクトルの実数倍の性質をもとに、ベクトルの演算ができる。</li> <li>○ベクトルの平行条件を理解し、平行なベクトルを求めることができる。</li> <li>○平面上のベクトルが2つのベクトルの線形和で1通りに表されることを理解し、具体的なベクトルを2つのベクトルで表すことができる。</li> <li>○ベクトルの成分表示の仕組みを理解し、具体的なベクトルを成分表示できる。また、そのベクトルの大きさを求めることができる。</li> <li>○成分表示されたベクトルの計算ができる。</li> <li>○点の座標とベクトルの成分の関係を理解し、2点で定められるベクトルを成分表示できる。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ベクトルの加法の性質が成り立つことを、加法の定義を用いて説明することができる。</li> <li>○ベクトルの減法の性質が成り立つことを、減法の定義を用いて説明することができる。</li> <li>○ベクトルの和、差、実数倍の定義をもとに、それらを組み合わせたベクトルの図示ができる。</li> <li>○ベクトルの平行条件を成分表示にも適用し、成分を定めることができる。</li> <li>○ベクトルの成分と点の座標を明確に区別し、正しく言葉で表現できる。</li> <li>○点の座標とベクトルの成分の関係を、座標平面上の図形的問題に活用できる。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常の量で、向きと大きさをもつものがあることに興味をもち、それをベクトルで表現しようとする。</li> <li>○1つのベクトルに平行な単位ベクトルを求める公式について、それが正しいことを、定義や既習の計算法則を用いて確認しようとする。</li> <li>○成分表示されたベクトルの演算法則を、ベクトルの演算法則から導き出そうとする。</li> <li>○座標平面上の図形的問題について、ベクトルを用いる解法と用いない解法を比較し、条件の過不足を検討することで、それぞれの解法の特徴を検討しようとする。</li> </ul>	○	○	○	10
定期考査			○	○		1

1 学期	向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。	第1章 第1節 ベクトルとその演算 第1章 第2節 ベクトルと平面図形	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○内積が実数であることを理解している。</li> <li>○ベクトルの内積の定義を理解し、内積を求めることができる。</li> <li>○成分表示されたベクトルの内積を求めることができる。</li> <li>○成分表示された2つのベクトルのなす角を、内積を用いて求めることができる。</li> <li>○ベクトルの垂直条件を理解し、成分を定めることができる。</li> <li>○三角形の面積がベクトルを用いて求められる。</li> <li>○点の位置を、基準となる点と1つのベクトルを用いて表すことができることを理解している。</li> <li>○ベクトルを点の位置ベクトルで表すことができる。</li> <li>○内分点、外分点の位置ベクトルを求めることができる。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ベクトルの垂直条件を活用して、与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。</li> <li>○内積の性質を用いて、等式を証明したり、ベクトルの大きさやなす角を求めたりすることができる。</li> <li>○位置ベクトルを活用して、図形の性質が考察できる。</li> <li>○図形の問題において、求めた位置ベクトルの意味を解釈し、説明することができる。</li> <li>○位置ベクトルを活用して、3点が一直線上にあることを証明できる。</li> <li>○位置ベクトルの一意性を利用して、線分の交点の位置ベクトルを求めることができる。</li> <li>○ベクトルの内積を活用して、図形の性質を証明できる。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○内積の性質を、既習の知識を用いて証明しようとする。</li> <li>○ベクトルの内積の計算をする際、1つ1つの計算で用いている性質を意識し、正しく適用できているか確かめようとする姿勢がある。</li> <li>○線分ABをm:nに内分する点の位置ベクトルを求める過程を参考に、m:nに外分する点の位置ベクトルを、mとnの大小関係に関わらず自ら求めようとする。</li> <li>○三角形の3本の中線が1点で交わるのが、重心の位置ベクトルを求める過程で証明できることに興味をもち、それを確かめようとする。</li> <li>○様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。</li> </ul>	○	○	○	10
定期考査				○	○		1
	位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また、図形をベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式を求めたり、ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。	第1章 第2節 ベクトルと平面図形 第2章 空間ベクトル	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○位置ベクトルがある条件を満たすような点全体の集合がある図形となることを理解している。</li> <li>○直線のベクトル方程式について、媒介変数を用いて表すことができる。</li> <li>○通る1点と法線ベクトルから直線が定まることを理解し、具体的に直線の方程式を求めることができる。</li> <li>○円のベクトル方程式から、その中心の位置ベクトルや半径を求めることができる。</li> <li>○空間における点の表し方を理解し、座標平面や座標軸、原点に関して対称な点の座標を求めることができる。</li> <li>○空間の点と原点との距離が求められるようになる。</li> </ul>				

		<p>【思考・表現・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○直線の方向ベクトルについて、その向きや大きさと媒介変数の値の関係を考察できる。</li> <li>◎点が線分AB上に存在する条件を活用して、点Pの存在範囲を求めることができる。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○図形のベクトル方程式について、点の座標(x, y)についての方程式と関連させて考察し、それらの共通点などを見出そうとする。</li> <li>○座標空間における点の表し方を、座標平面における点の表し方の拡張として捉えようとする。</li> </ul>	○	○	○	10
定期考査			○	○		1
<p>平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。</p>	<p>第2章 空間ベクトル</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平面上のベクトルについての種々の定義や性質などは、空間においても同様に成り立つことを理解している。</li> <li>○空間図形の中で、等しいベクトルや逆ベクトルを探することができる。</li> <li>◎空間図形において、ベクトルの和や差を考察することができる。</li> <li>◎空間のベクトルが3つのベクトルの線形和で1通りに表されることを理解し、具体的なベクトルを3つのベクトルで表すことができる。</li> <li>◎ベクトルの成分表示について、平面上のベクトルの拡張になっていることを理解し、ベクトルが等しくなるように成分を定めたり、成分表示されたベクトルの大きさを求めたりすることができる。</li> <li>◎成分表示された空間のベクトルの演算ができる。</li> <li>◎座標空間の2点で定められるベクトルを成分表示できる。</li> <li>○空間のベクトルの内積の定義が平面上のベクトルの内積の定義と同じであることを理解し、空間のベクトルの内積を求めることができる。</li> <li>○成分表示された2つのベクトルのなす角を、内積を用いて求めることができる。</li> <li>○平面上のベクトルの内積の性質は、空間においても同様に成り立つことを理解している。</li> </ul> <p>【思考・表現・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○空間のベクトルが3つのベクトルの線形和で1通りに表される理由について、平面上のベクトルが2つのベクトルの線形和で1通りに表されることから説明できる。</li> <li>◎座標空間の3点で定まる角の大きさを、ベクトルを活用して求めることができる。</li> <li>◎ベクトルの垂直条件を活用して、与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○座標空間における点や図形について、座標平面における点や図形との関係性を捉えようとする。</li> </ul>				

		<p>○平面上のベクトルの性質などが空間でも成り立つことから、ベクトルの定義が次元によらないことに興味をもつ。</p> <p>○空間のベクトルの成分表示について、平面上のベクトルの成分表示の拡張として捉えようとする。</p> <p>○平面上のベクトルの内積の性質が空間でも成り立つことから、内積の定義が次元によらないことに興味をもつ。</p>	○	○	○	10
定期考査			○	○		1
3 学 期	<p>平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。</p>	<p>第2章 空間ベクトル</p> <p>【知識・技能】</p> <p>○位置ベクトルの定義や内分点などの位置ベクトルが平面上のベクトルの場合と同じであることを理解している。</p> <p>○座標空間における2点間の距離や線分の内分点、外分点の座標、三角形の重心の座標が求められる。</p> <p>○座標軸に垂直な平面の方程式が求められるようになる。</p> <p>○中心と半径が与えられた球面の方程式を求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○位置ベクトルを活用して、図形の性質が考察できる。</p> <p>○位置ベクトルを活用して、空間の3点が一直線上にあることを証明できる。</p> <p>○空間の4点が同じ平面上にある条件を理解し、点の座標を定めることができる。</p> <p>○位置ベクトルの一意性を利用して、直線と平面の交点の位置ベクトルを求めることができる。</p> <p>○ベクトルの内積を活用して、図形の性質を証明できる。</p> <p>○<math>x=a</math>などの方程式が座標軸に垂直な平面を表す理由を正しく理解し、座標軸に平行な直線の方程式について考察できる。</p> <p>○条件から中心と半径を考え、球面の方程式を求めることができる。</p> <p>○球面と平面が交わってできる図形を、連立方程式の解の集合として考察できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○様々な空間図形の考察にベクトルを活用しようとする。</p> <p>○座標平面上の図形の方程式について改めて正しく理解し、座標空間についても同じ考え方で図形の方程式について考察しようとする。</p>	○	○	○	10
	<p>数学 I A II B C の総合演習</p>	<p>数学 I A II B C の総合演習</p> <p>【知識・技能】</p> <p>○これまで学習した内容から、問題を解くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○様々な分野の知識を相互に関連させながら、問題を解くことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○積極的に問題演習に取り組もうとする。</p>				



			○	○	○	15
定期考査			○	○		1
						合計
						70

# 高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 理科 科目 物理基礎

教科：理科 科目：物理基礎 単位数：2 単位  
 対象学年組：第 2 学年 3 組～ 5 組  
 教科担当者：（3組：宮崎）（4組：宮崎）（5組：宮崎）（組： ）（組： ）（組： ）  
 使用教科書：（物理基礎 数研出版）

教科 理科 の目標：  
**【知識及び技能】** 自然の事物や現象に対する興味を持ち、原理・法則を基に理解するとともに、科学的に探究するために必要な実験、観察に関する基本的な知識・技能を身に付ける。  
**【思考力、判断力、表現力等】** 自然の事物・現象の中に法則性を見出し、法則性をもとに自然をとらえ、得られた結果を他人に説明できるよう表現力を身に付けさせる。  
**【学びに向かう力、人間性等】** 自然の事物・現象に興味を持ち、奇襲の知識などで理解しようとする態度を養う。その際に、他の人達と協力し合って探求する姿勢を育てる。

科目 物理基礎 の目標：	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
	自然の事物・現象に関わり、物理の見方・考え方を働かせ、法則によって理解したり、観察・実験を通して理解しようとする態度や技能を身に付けるようにする。	教科にしばられず、さまざまな事物・現象に興味を持ち、物理との関連を見いだして物理的に理解を深めそれを表現できる力を養う。	物理の基本的な知識や考え方を、きちんと理解しようとする態度を養う。その際、身近な級友と協力し合う姿勢を育てる。さらに、日常的に社会と教科の関連に興味を持たせる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
				知	思	態	
1 学 期	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1. 速度 <b>【知識及び技能】</b> 物体の運動を定量的に理解する。 <b>【思考力、判断力、表現力等】</b> 物体の運動を式やグラフで表現する。 <b>【学びに向かう力、人間性等】</b> 学習したことを、日常生活の運動にあてはめて考える。	・指導事項 物体の運動を理解するための物理量（速度等）の定義をきちんと理解させる。 ・教材 教科書、問題集、プリント ・一人1台端末の活用等 授業スライドの表示	<b>【知識・技能】</b> 速さと速度の区別ができる。 相対速度と速度合成が区別できる <b>【思考・判断・表現】</b> グラフから運動を想像できる 速度合成がベクトル合成であることを理解できる <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> グラフから平均の速度と瞬間の速度が理解できる 周囲の人と協力して疑問を解決する	○	○	○	4
	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 2. 加速度 3. 落体の運動 <b>【知識及び技能】</b> 物体の運動を定量的に理解する。 <b>【思考力、判断力、表現力等】</b> 物体の運動を式やグラフで表現する。 <b>【学びに向かう力、人間性等】</b> 学習したことを、日常生活の運動にあてはめて考える。	・指導事項 直線運動に関して、速度の変化する運動をグラフや式を用いて理解する。 ・教材 教科書、問題集、プリント ・一人1台端末の活用等 授業スライドの表示	<b>【知識・技能】</b> 加速度により、速度が変化する運動を理解する。式やグラフから、定量的に運動を理解する。 <b>【思考・判断・表現】</b> 式やグラフから、具体的な運動を想像できる。速度や加速度が負になる運動について、具体的な運動と関連できる。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 具体的な運動を、グラフや式で表現しようとする。 周囲の人と協力して疑問を解決する。	○	○	○	6
	定期考査			○	○	○	1
	第1編 運動とエネルギー 第2章 運動の法則 1. 力のはたらき 2. 力のつり合い <b>【知識及び技能】</b> 力の性質、力の表現方法を理解する。 <b>【思考力、判断力、表現力等】</b> 力のはたらき、力のつり合いの関係を理解し判断する。 <b>【学びに向かう力、人間性等】</b> 力のつり合いを、日常生活に見られる構造物にあてはめて考える。	・指導事項 力の性質、力の表現方法を理解させる。物体に、複数の力が作用しつり合う場合の条件を知り、つり合うかどうかの判断ができるようにする。さまざまな種類の力について理解する。 ・教材 教科書、問題集、プリント ・一人1台端末の活用等 授業スライドの表示	<b>【知識・技能】</b> 力の定義が分かる。力の表現方法が分かる。力がつり合う条件が分かり、力のつり合いについて判断できる。 <b>【思考・判断・表現】</b> 力のつり合いを保つため、加える豊一からについて求められる。力のつり合いを保つための構造を推測できる。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 構造物に作用する力のつりあいについて興味を持ち、自ら調べる。演習問題に積極的に取り組む。 周囲の人と協力して疑問を解決する。	○	○	○	6
	第1編 運動とエネルギー 第2章 運動の法則 3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力 <b>【知識及び技能】</b> 力の性質、力の表現方法を理解する。 <b>【思考力、判断力、表現力等】</b> 力のはたらき、力のつり合いの関係を理解し判断する。 <b>【学びに向かう力、人間性等】</b> 力のつり合いを、日常生活に見られる構造物にあてはめて考える。	・指導事項 力が物体の運動に及ぼす効果を理解させる。力の加わり方によって、物体に現れる運動の違いがあることを理解する。特に、面から受ける摩擦力や、液体、気体から受ける力の特徴から、物体の運動に与える影響を知る。 ・教材 教科書、問題集、プリント ・一人1台端末の活用等 授業スライドの表示	<b>【知識・技能】</b> 力が物体の運動に与える影響が分かり、力の特徴から、物体に生じる運動が予想できる。 <b>【思考・判断・表現】</b> 物体に作用する具体的な力から、物体に生じる運動を予想できる。特に、摩擦力や空気抵抗を受ける場合の運動について、その運動が予想でき、他人に説明ができる。 <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 日常的に目にする運動を、運動の法則にあてはめて考える。乗り物について、運動の法則をあてはめて理解する。 周囲の人と協力して疑問を解決する。	○	○	○	6
定期考査			○	○	○	1	



高等学校 令和6年度(2学年用) 教科 理科 科目 化学

教科: 理科 科目: 化学 単位数: 3 単位

対象学年: 第2学年 3組~5組 (4組: 毛塚)

教科担当: (3組: 毛塚) (4組: 毛塚) (5組: 毛塚)

使用教科書: (東京書籍『化学 Vol1, 翔誠編 Vol2, 2物質編』)

【知識及び技能】

自然の事象や現象に対する概念・原則・法則の理解を深めるとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な知識・技能を身に付ける。

【思考力・判断力・表現力等】

自然の事象・現象の中に問題を見出し、目的意識をもって実験・観察などを行い、得られた結果をもとに分析および考察し、思考力・判断力・表現力等を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

自然の事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学 目標: 【知識及び技能】 【思考力・判断力・表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】

化学の学習目標(授業に関わり、教科の概念・考え方を理解し、科学的な事象・現象を観察・実験などを行い、科学的に探究しようとする態度を養う)と、科学的な技能を身に付けるようにする。

Table with 7 columns: 単元の具体的な学習目標, 指導項目・内容, 評価標準, 知, 感, 意, 記, 配点. Rows include: 第1章 物質の状態, 第2章 化学反応とエネルギー, 第3章 化学反応の速度と平衡, 第4章 有機化合物, 第5章 アルコールと炭水化物.



# 府中 高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 理科 科目 地学基礎

教科：理科 科目：地学基礎 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～7組

教科担当者：（1組：野中）（2組：野中）（3組：野中）（4組：野中）（5組：野中）（6組：野中）（7組：野中）

使用教科書：（数研出版 高等学校 地学基礎）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】自然の物事・現象に対する概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な知識・技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】自然の物事・現象の中に問題を見出し、見通しをもって実験・観察などを行い、得られた結果をもとに分析および考察し思考力・判断力・表現力を育む。

【学びに向かう力、人間性等】自然の物事・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 地学基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地学基礎に関する基本的な知識、技能を修得する	科学的な思考を理解し、論理的に判断・表現ができる	授業に主体的に参加し、課題に対して適切に対応し、提出物を提出できる

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	態			配当 時数
				知	思	態	
1 学 期	第1編 活動する地球 【知識及び技能】 活動する地球に関する基本的な知識、技能を身に付けさせる 【思考力、判断力、表現力等】 科学的な思考を理解し、論理的に判断・表現する力をつけさせる 【学びに向かう力、人間性等】 授業に主体的に参加し、課題に対して適切に対応する力を養う	・第1章 地球の構造 第2章 プレートの運動 第3章 地震 第4章 火山  ・教材等 教科書、プリント、スライド教材、ワークブック、一人1台端末の活用	【知識・技能】 活動する地球に関する基本的な知識、技能を修得する 【思考・判断・表現】 科学的な思考を理解し、論理的に判断・表現ができる 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に主体的に参加し、課題に対して適切に対応し、提出物を提出できる	○	○	○	12
	定期考査			○	○	○	1
	第2編 移り変わる地球 【知識及び技能】 移り変わる地球に関する基本的な知識、技能を身に付けさせる 【思考力、判断力、表現力等】 科学的な思考を理解し、論理的に判断・表現する力をつけさせる 【学びに向かう力、人間性等】 授業に主体的に参加し、課題に対して適切に対応する力を養う	・第1章 地層の形成 第2章 古生物の変遷と地球環境  ・教材等 教科書、プリント、スライド教材、ワークブック、一人1台端末の活用	【知識・技能】 移り変わる地球に関する基本的な知識、技能を修得する 【思考・判断・表現】 科学的な思考を理解し、論理的に判断・表現ができる 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に主体的に参加し、課題に対して適切に対応し、提出物を提出できる	○	○	○	12
定期考査			○	○	○	1	
2 学 期	第3編 大気と海洋 【知識及び技能】 移り変わる地球に関する基本的な知識、技能を身に付けさせる 【思考力、判断力、表現力等】 科学的な思考を理解し、論理的に判断・表現する力をつけさせる 【学びに向かう力、人間性等】 授業に主体的に参加し、課題に対して適切に対応する力を養う	・第1章 地球の熱収支 第2章 大気と海洋の運動  ・教材等 教科書、プリント、スライド教材、ワークブック、一人1台端末の活用	【知識・技能】 大気と海洋に関する基本的な知識、技能を修得する 【思考・判断・表現】 科学的な思考を理解し、論理的に判断・表現ができる 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に主体的に参加し、課題に対して適切に対応し、提出物を提出できる	○	○	○	12
	定期考査			○	○	○	1
	第4編 地球の環境 【知識及び技能】 地球の環境に関する基本的な知識、技能を身に付けさせる 【思考力、判断力、表現力等】 科学的な思考を理解し、論理的に判断・表現する力をつけさせる 【学びに向かう力、人間性等】 授業に主体的に参加し、課題に対して適切に対応する力を養う	・第1章 地球の熱収支 第2章 大気と海洋の運動  ・教材等 教科書、プリント、スライド教材、ワークブック、一人1台端末の活用	【知識・技能】 地球の環境に関する基本的な知識、技能を修得する 【思考・判断・表現】 科学的な思考を理解し、論理的に判断・表現ができる 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に主体的に参加し、課題に対して適切に対応し、提出物を提出できる	○	○	○	13
定期考査			○	○	○	1	
	第5編 太陽系と宇宙 【知識及び技能】 太陽系と宇宙に関する基本的な知識、技能を身に付けさせる 【思考力、判断力、表現力等】 科学的な思考を理解し、論理的に	・第1章 太陽系と太陽 第2章 宇宙の誕生  ・教材等 教科書、プリント、スライド教材、ワークブック 一人1台端末の	【知識・技能】 太陽系と宇宙に関する基本的な知識、技能を修得する 【思考・判断・表現】 科学的な思考を理解し、論理的に判断・表現が	○	○	○	16

3 学期	判断・表現する力をつけさせる 【学びに向かう力、人間性等】 授業に主体的に参加し、課題に 対して適切に対応する力を養う	活用	できる 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に主体的に参加し、課題に適切 に対応し、提出物を提出できる	○	○		1
	定期考査						合計
							70

# 高等学校 令和6年度（2学年用）教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育 単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：（1組～7組男子：松岡・永春）（1組～7組女子：佐藤・松岡）

使用教科書：（現代高等保健体育・ステップアップ高校スポーツ）

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】保健や体育で得た知識と技能を活用し、生涯にわたり率先、また適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】社会や健康、自己の課題を発見し、適切に判断・行動ができる思考力等を高める。

【学びに向かう力、人間性等】自己の体力や健康について課題を見つけ、課題解決に向けて主体的に取り組む。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。	実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。	率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。

1 学 期	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
	<p>【知識及び技能】練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨む。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励む。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組む。</p>	<p>オリエンテーション・スポーツテスト（男女）</p> <p>授業の諸注意・ラジオ体操の確認、スポーツテスト（反復横とび・立ち幅跳び・長座体前屈・上体起こし・握力・ハンドボール投げ・50m走・シャトルラン）</p>	<p>【知識及び技能】練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨むことができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。</p>	○	○	○	6
	<p>【知識及び技能】練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨む。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励む。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組む。</p>	<p>陸上競技（男女）</p> <p>跳躍（走り幅跳び）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエッジアップの方法</li> <li>・基本ドリル</li> <li>・計測（実測での計測、踏切線での計測）</li> </ul>	<p>【知識及び技能】練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨むことができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。</p>	○	○	○	12
	<p>【知識及び技能】練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨む。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励む。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組む。</p>	<p>サッカー（男女）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポジション（種目の特性、安全面の留意点及び施設の使用方法等について説明。ゴールキーパーの説明）</li> <li>・リフティング、トラッピング、ドリブルの練習</li> <li>・キック練習（インサイドキック、インステップキック、アウトサイドキック、ヒールキック）</li> <li>・近い距離、遠い距離のパスやシュート</li> <li>・センターリングやCK、FK</li> <li>・パス、ドリブル、シュートの総合練習</li> <li>・3：1、5：2、3：3（攻守）</li> <li>・ゲーム練習</li> <li>・実技テスト</li> </ul>	<p>【知識及び技能】練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨むことができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。</p>	○	○	○	12
	<p>【知識及び技能】練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨む。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励む。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組む。</p>	<p>卓球（女）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎打ちから応用練習</li> <li>・パートナーとの連携を考えた打球コース</li> <li>・サービスからの3球目攻撃</li> <li>・レシーブからの4球目攻撃 ゲーム練習</li> </ul>	<p>【知識及び技能】練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨むことができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。</p>	○	○	○	7
	<p>【知識及び技能】練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨む。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励む。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組む。</p>	<p>ソフトボール（男女）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャッチボール</li> <li>・トスバッティング</li> <li>・ノックによる守備練習</li> <li>・試合</li> </ul>	<p>【知識及び技能】練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨むことができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。</p>	○	○	○	8



2 学 期	<p>【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨む。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励む。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組む。</p>	<p>持久走（男女）</p> <p>・4km走（女子）、5km走（男子）タイムトライアル</p>	<p>【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨むことができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。</p>	○	○	○	4
	<p>【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨む。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励む。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して</p>	<p>持久走（男女）</p> <p>・4km走（女子）、5km走（男子）タイムトライアル</p>	<p>【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨むことができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り</p>	○	○	○	5



## 高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 保健

教科：保健体育 科目：保健

単位数：1 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：（1組：松岡）（2組：渡邊）（3組：渡邊）（4組：永春）（5組：永春）（6組：松岡）（7組：渡邊）

使用教科書：（現代高等保健体育・図説現代高等保健）

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】保健や体育で得た知識と技能を活用し、生涯にわたり率先、また適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】社会や健康、自己の課題を発見し、適切に判断・行動ができる思考力等を高める。

【学びに向かう力、人間性等】自己の体力や健康について課題を見つけ、課題解決に向けて主体的に取り組む。

科目 保健 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
主体的に学んだ知識や技能を実生活で生かし、情報活用能力を育む。	個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見できる。	課題の解決に向けた学習に主体的に取り組む。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 ライフステージと健康 2 思春期と健康 【知識及び技能】 ・思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	・教科書、プリント、パワーポイント等 ・一人1台端末	【知識・技能】 ・思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 【主体的に学習に取り組む態度】 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
3 性意識と性行動の選択 4 妊娠・出産と健康 5 避妊法と人工妊娠中絶 【知識及び技能】 ・結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解したことを言ったり書いたりしている。 ・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 ・結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯の各段階における健康について、課題	・教科書、プリント、パワーポイント等 ・一人1台端末	【知識・技能】 ・結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解したことを言ったり書いたりしている。 ・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 ・結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 【主体的に学習に取り組む態度】 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	6

下期	の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。						
6	結婚生活と健康	・教科書、プリント、パワーポイント等	【知識・技能】 ・中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもつこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などとの良好な関係を保つこと、地域における交流をもつことなどが関係することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・高齢期には、加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。 ・生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。				3
7	中高年期と健康	・一人1台端末	【知識及び技能】 ・中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもつこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などとの良好な関係を保つこと、地域における交流をもつことなどが関係することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・高齢期には、加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。 ・生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	○	○	○	3
定期	定期考査			○	○		1
8	働くことと健康	・教科書、プリント、パワーポイント等	【知識・技能】 ・労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・労働と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している。	○	○	○	4
9	労働災害と健康	・一人1台端末	【知識及び技能】 ・働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・労働と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している。	○	○	○	4
10	健康的な職業生活		【知識及び技能】 ・働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・労働と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している。	○	○	○	4

<p>ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・労働災害と健康について、習得した知識を基に、労働災害の防止に向けて、個人の取組と社会的対策を整理している。</li> <li>・労働と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】 労働災害と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>		<p>労働災害と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>				
<p>1 大気汚染と健康 2 水質汚濁・土壌汚染と健康 3 環境と健康にかかえる対策 4 ごみの処理と上下水道の整備</p> <p>【知識及び技能】 ・人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書、プリント、パワーポイント等</li> <li>・一人1台端末</li> </ul>	<p>【知識・技能】 ・人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	6
<p>5 食品の安全性 6 食品衛生にかかわる活動</p> <p>【知識及び技能】 ・人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性が損なわれると、健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・食品と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 食品と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書、プリント、パワーポイント等</li> <li>・一人1台端末</li> </ul>	<p>【知識・技能】 ・人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性が損なわれると、健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・食品と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 食品と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	6



# 高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 芸術 科目 音楽Ⅱ

教科： 芸術 科目： 音楽Ⅱ 単位数： 2 単位  
 対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 7 組  
 教科担当者： （ 1 組～7 組：千葉真由美）  
 使用教科書： （ ON! 2 ）

教科 芸術 芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術の目標： 文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

科目 音楽Ⅱ 音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする	個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
		歌	器	創						鑑 賞
1 学 期	音楽と他の芸術との結びつきを考え表情豊かに歌おう 【知識及び技能】言葉の特性と内容に応じた発声との関わりについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、攻勢を感覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図を持って歌唱する。 【学びに向かう力、人間性等】ミュージカルの内容と音楽の構造や歌詞との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。	「校歌」 ミュージカルについて 「Sound of Music」(鑑賞) 「ドレミの歌」(合唱) 「エーデルワイス」(器楽) 「すべての山に登れ」(独唱) 「もうすぐ17歳」 「私のお気に入り」(重唱)	○	○	○	【知識及び技能】言葉の特性と歌詞に応じた発声との関わりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、攻勢を感覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図を持っている。 【学びに向かう力、人間性等】ミュージカルの内容と音楽の構造や歌詞との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	表現を意図的に考えてギター、キーボードを演奏しよう 【知識及び技能】曲想とギター、キーボードの音色や奏法との関わりについて理解する。創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表現する。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を感覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもって表現する。 【学びに向かう力、人間性等】曲想とギター、キーボードの音色や奏法との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組む。	エーデルワイス(器楽) ギター奏法の基本 第三の男 海見える街 夢の中へ	○	○	○	表現を意図的に考えてギター、キーボードを演奏しよう 【知識及び技能】曲想とギター、キーボードの音色や奏法との関わりについて理解する。創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表現している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を感覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもって表現している。 【学びに向かう力、人間性等】曲想とギター、キーボードの音色や奏法との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組んでいる。	○	○	○	20
	音楽を形作っている要素に注目して、曲の良さや美しさを探ろう 【知識及び技能】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解する。【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を感覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽の良さや美しさを自ら味わって聴く。 【学びに向かう力、人間性等】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。	リピートの魔術 ボレロ ブルックナー 交響曲第4番	○	○	○	【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、攻勢を感覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、表現意図を持って演奏している。【主体的に学習に取り組む態度】曲想と手拍子など音色や奏法との関わり、他者との調和を意識して演奏することに関心を持ち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	4
コード進行をもとに工夫して編曲し、発表しよう 【知識及び技能】音を連ねたりしたときの響き、音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージとかかわらせて理解する。【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テ	「エーデルワイス」 「私のお気に入り」	○	○	○	【知識及び技能】音を連ねたりしたときの響き、音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージとかかわらせて理解している。【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、形式、構成を感覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽を作るかについて表現意図	○	○	○	○	





高等学校 令和6年度（2学年用） 教科

美術Ⅱ

教科：美術 科目：美術Ⅱ 単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：（1.2組：尾関）（3.4組：尾関）（5.6組：尾関）

使用教科書：（美術2）

教科 美術 の目標：

【知識及び技能】西・東洋美術史について視座を深めながら、立体、平面の制作における各種技能を深める。

【思考力、判断力、表現力等】イラストやデザイン立案に関する思考力を高め、色彩やデッサンのおいての表現力を培う。

【学びに向かう力、人間性等】講義及び作品発表の際の姿勢、制作後の美化の時間において協力し合う人間性を身につける。

科目 美術Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
一年生の時に習得した知識や技能を応用的な作品に使い、より高いクオリティー作品作りを目指す。	一年生の時より、より実社会に根差した課題に対し、思考力と判断力を駆使した問題解決能力の高い作品を起案する。	講義及び作品発表の際の姿勢、制作後の美化の時間においてクラス内で協力し合う人間性を継続する。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学 期	A 野外デッサン 【思考力、判断力、表現力等】 「見ること」の意味を学ぶ	・学校の敷地内にある雑木林や自転車置き場を歩き、見えたものをスケッチブックに描きこんでいく。	【思考・判断・表現】 輪郭線だけでは表現しにくいモチーフの森羅万象を工夫を持って捉えられたかどうか		○		2
	B 和文フォントのレタリング 【知識及び技能】 和文フォントの基礎を理解し、既存フォントで自分の名前をレタリングする	・和文フォントのルールを理解する。 ・明朝体とゴシック体の違いを理解する。 ・明朝体で名前をレタリングする。（モノクロ着彩）	【知識・技能】 明朝体のルールを理解し、美しいアウトラインを制作したうえで、平筆によるべた塗りを丁寧に仕上げられたかどうか	○			6
	定期考査						
	C 欧文フォントのレタリング 【知識及び技能】 欧文フォントの基礎を理解し、既存フォントで好きな言葉をレタリングする	・欧文フォントのルールを理解する。 ・欧文フォントで好きな言葉をレタリングする。（カラー着彩）	【知識・技能】 欧文フォントのルールを理解し、美しいアウトラインを制作したうえで、平筆によるべた塗りを丁寧に仕上げられたかどうか	○			6
2 学 期	D プライベートロゴタイプ 【知識及び技能】 レタリング技術の完成度を高める 【思考力、判断力、表現力等】 オリジナリティにあふれた作品を起案する 【学びに向かう力、人間性等】 完成に向けて努力する	・「将来の仕事」を想定して、その詳細について言語化する。 ・言語化した「将来」について起業した際の会社名を考える。 ・業務内容に基づいて、「会社名」のロゴデザインを起案し、制作する。	【知識及び技能】 課題BCで学んだ技術の完成度を高められたかどうか 【思考力、判断力、表現力等】 オリジナリティにあふれた作品を起案できたかどうか 【学びに向かう力、人間性等】 完成に向けて努力できたかどうか	○	○	○	8
	E プロダクトデザイン 【思考・判断・表現】 立体について思考を深める 【主体的に学習に取り組む態度】 グループディスカッションの能力やプレゼンテーションの能力を培う	・「この世にまだ生まれていない工業製品」をテーマにグループごとに企画立案し、プレゼンテーションする。	【思考・判断・表現】 社会への観察と思考を深め、必要とされる商品を企画立案できたかどうか 【主体的に学習に取り組む態度】 グループ内でのディスカッションを盛りあげたり取りまとめたりできたかどうか。プレゼンテーションの場で協働できたかどうか	○		○	4
3 学 期	F スプーン制作 【知識・技能】 刃物等を安全にあつかう 【学びに向かう力、人間性等】 完成に向けて努力する	・与えられた木材から切り出せるサイズの使いやすいスプーンを起案する。 ・起案したスプーンを鋸等で切り出し、ヤスリで丁寧に仕上げる。	【知識・技能】 刃物等を安全に扱い、使いやすいスプーンができたかどうか 【学びに向かう力、人間性等】 ヤスリ等で細部が丁寧に仕上がられたかどうか		○	○	26
	G 絵本のアイデア 【思考・判断・表現】 既存のストーリーもしくはオリジナルストーリーによる絵本の構成を考える	・好きな物語、歌詞などから4場面を選び、それぞれの場面にふさわしいイラストを考え、絵本の台割を作る。	【思考・判断・表現】 既存のストーリーをオリジナルの視点で捉えなおし、見やすい画面に構成できたかどうか。もしくは、オリジナルストーリーによる個性的な絵本の構成を考えられたかどうか		○		6
合計	H 絵本の制作 【知識・技能】 テーマに適した画材や表現技法を選び、丁寧に作画する 【学びに向かう力、人間性等】 時間の限界まで、クオリティーを再上限に高める努力をし続ける	・制作した台割に沿って、本番用の絵本台紙に、イラストと言葉のレイアウトを考えて下描きする。 ・下描きに沿って、画材や表現技法お選び制作し、絵本を完成させる。	【知識・技能】 テーマに適した画材や表現技法を選び、丁寧に作画できたかどうか 【学びに向かう力、人間性等】 時間に追われつつも、クオリティーを再上限に高める努力をし続けられたかどうか	○		○	12
							70

高等学校 令和 6 年度 (2学年月)

芸術

科目 書道Ⅱ

教科: 芸術

科目: 書道Ⅱ

単位数: 2 単位

対象学年組: 第 2 学年 1 組～ 6 組

教科担当者: 松永鈴子 ( 組: ) ( 組: ) ( 組: ) ( 組: ) ( 組: )

使用教科書: ( 書道Ⅱ 教育出版 )

教科 芸術 の目標:

【知識及び技能】多彩な書の美に親しむ

【思考力、判断力、表現力等】創作を通じ、自己の内面を表現する

【学びに向かう力、人間性等】名筆の技法や美にふれ、豊かな心を得る

科目 書道Ⅱ の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
古典作品の書風、書体の特徴を捉え、古典の豊かな個性を味わう。いろいろな用筆法を習得する。	古典の作品を通して、いろいろな美しさを味わい、筆、墨、紙、などの用具・用材の特性を生かしながら創造的な自己の表現をもとめる。	道具の準備をしっかりとす。集中して作品に取り組む姿勢。生涯にわたり書を愛好する心情を育み、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期  篆書について学ぶ 小篆の鑑賞と臨書  【知識及び技能】 篆書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技法、線質、字形や構成を生かした表現を身に着ける。 【思考力、判断力、表現力等】 篆書の書体や書風に則した用筆、運筆、字形や構成をについて工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 幅広い表現や鑑賞の学習活動に主体的に取り組む書に対する感性を豊かにする。	・篆書の変遷と成立 ・石鼓文 ・金文	【知識・技能】 古典の書体や書風と用筆、運筆について理解している。 基本的な用筆、運筆の技法、線質、字形の構成を生かした表現を身に着けている。 歴史的背景や内容を理解している。 【思考・判断・表現】 書体や書風に則した用筆、運筆、字形や構成について構想し工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に鑑賞と表現の学習活動に取り組もうとしている。より良い作品を作ろうと努力している。	○	○	○	6
篆刻 姓名印を作成する  【知識及び技能】 篆書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技法、線質、字形や構成を生かした表現を身に着ける。 【思考力、判断力、表現力等】 篆書の書体や書風に則した用筆、運筆、字形や構成をについて工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 幅広い表現や鑑賞の学習活動に主体的に取り組む書に対する感性を豊かにする。	・名前の文字調べ ・印稿制作 ・刻す ・押印	【知識・技能】 古典の書体や書風と用筆、運筆について理解している。 基本的な用筆、運筆の技法、線質、字形の構成を生かした表現を身に着けている。 歴史的背景や内容を理解している。 【思考・判断・表現】 書体や書風に則した用筆、運筆、字形や構成について構想し工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に鑑賞と表現の学習活動に取り組もうとしている。より良い作品を作ろうと努力している。	○	○	○	12
2 学 期  隷書を学ぶ 鑑賞と臨書  【知識及び技能】 隷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技法、線質、字形や構成を生かした表現を身に着ける。 【思考力、判断力、表現力等】 隷書の書体や書風に則した用筆、運筆、字形や構成をについて工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 幅広い表現や鑑賞の学習活動に主体的に取り組む書に対する感性を豊かにする。	隷書の基本 乙瑛碑の臨書 木簡の臨書 曹全碑臨書 石門頌臨書	【知識・技能】 古典の書体や書風と用筆、運筆について理解している。 基本的な用筆、運筆の技法、線質、字形の構成を生かした表現を身に着けている。 歴史的背景や内容を理解している。 【思考・判断・表現】 書体や書風に則した用筆、運筆、字形や構成について構想し工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に鑑賞と表現の学習活動に取り組もうとしている。より良い作品を作ろうと努力している。	○	○	○	18
臨書 半切に制作  【知識及び技能】 各々が選択した古典に基づく基本的な用筆・運筆の技法、線質、字形や構成を生かした表現を身に着ける。 【思考力、判断力、表現力等】 書体や書風に則した用筆、運筆、字形や構成をについて工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 幅広い表現や鑑賞の学習活動に主体的に取り組む書に対する感性を豊かにする。	行書の多彩な表現を学ぶ 集王聖教序臨書 温泉名臨書 祭姪分稿臨書 北宋の三大家	【知識・技能】 古典の書体や書風と用筆、運筆について理解している。 基本的な用筆、運筆の技法、線質、字形の構成を生かした表現を身に着けている。 歴史的背景や内容を理解している。 【思考・判断・表現】 書体や書風に則した用筆、運筆、字形や構成について構想し工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に鑑賞と表現の学習活動に取り組もうとしている。より良い作品を作ろうと努力している。	○	○	○	18
漢字かな交じりの書の学習  【知識及び技能】 目的や用途に則した表現、漢字と仮名の調和した技能を身に着ける。 【思考力、判断力、表現力等】 漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさなど工夫する。	漢字かな交じりの作品の鑑賞 自分で撰文し作品制作 作品発表	【知識・技能】 漢字かな交じり書について理解している。 基本的な用筆、運筆の技法、線質、字形の構成を生かした表現を身に着けている。 【思考・判断・表現】 漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成を工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	16





高等学校 令和6年度2学年用) 教科

外国語 科目 論理表現II

教科: 外国語

科目: 論理表現II

単位数: 2 単位

対象学年組: 第 2 学年 1 組~ 7 組

教科担当者: ( 1 組: 坂江・松 ( 2 組: 坂江・内E ( 3 組: 内田・坂江 ( 4 組: 内田・松田 ( 5 組: 福山・内I・坂江 ) ( 7 組: )

使用教科書: ( MY WAY Logic and Expressinon II 三省堂 )

教科 外国語

の目標:

【知識及び技能】英語の4技能に必要な基本的な統語的知識と表現方法の定着

【思考力、判断力、表現力等】的確な表現を実現末うために重要な試行的な判断力の養成

【学びに向かう力、人間性等】真摯な態度で他言語の習得と他文化を理解する

科目 論理表現II

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英語の4技能に必要な基本的な統語的知識と表現	的確な表現を実現末うために重要な試行的な判断力	真摯な態度で他言語の習得と他文化を理解する

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		聞	読	話 [ や ]	話 [ 発 ]					
単元 Lesson 1 【知識及び技能】助動詞の表現 ( used to should had better would など ) 【思考力、判断力、表現力等】好きな場所を紹介する発表の原稿 【学びに向かう力、人間性等】これまでの経験についての会話	・指導事項 会話表現の習得 ・教材 教科書 プリント ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	自分の経験について、情報や自分の考え、気持ちなどを伝えるために必要となる表現の意味や働きを理解している。 予定について、情報や自分の考え、気持ちなどを伝えるために必要となる表現の意味や働きを理解している。	○	○	○	5	
単元 Lesson 2 【知識及び技能】印象深かった授業について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】お互いによく理解できるように、印象深かった授業について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく合っている。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 会話表現の習得 ・教材 教科書、プリント ・一人1台端末の活用 等		○	○	・最新のものについて、情報を整理し、多様な語句や文を用いて詳しく話して紹介する技能を身に付けている。 ・お互いによく理解できるように、週末の予定について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合うとしている。	○	○	○	8	
定期考査						○	○	○	1	
単元 Lesson 3 【知識及び技能】いろいろな科学技術や将来の社会の状況と職業などについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合う。 【思考力、判断力、表現力等】いろいろな科学技術について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】社会の状況と職業について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちを整理し、論理の構成や展開を工夫して詳しく書くことができる。	・指導事項 会話表現の習得 ・教材 教科書 プリント ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	印象深かった授業について、受動態や、授業で行われている内容を表す表現などを用いて、情報や自分の考え、気持ちを整理し、詳しく発表する技能を身に付けている。 読み手によく理解してもらえるように、贈り物について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちを整理し、論理の構成や展開を工夫して詳しく書いていく。	○	○	○	8	
単元 Lesson 4 【知識及び技能】日本の文化について、不定詞 (進行形・受動態・完了形不定詞、原形不定詞) や日本文化を表す表現などを用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合う。 【思考力、判断力、表現力等】日本の文化について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝えるための多様な語句や文を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】知覚動詞、使役動詞の特徴やきまりに関する事項を確認し、それを用いて身近な人やも	・指導事項 会話表現の習得 ・教材 教科書 プリント ・一人1台端末の活用 等		○	○	日本の文化について、知覚動詞、使役動詞や日本文化を表す表現などを用いて、情報や自分の考え、気持ちを整理し、詳しく発表する技能を身に付けている。 聞き手によく理解してもらえるように、日本の文化について、情報や自分の考え、気持ちを整理し、多様な語句や文を用いて詳しく発表している。	○	○	○	7	

1  
学  
期



高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 情報 科目 情報Ⅱ

教科：情報 科目：情報Ⅱ 単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年

教科担当者：（原口 剛）

使用教科書：（高等学校 情報Ⅱ）

教科 情報 の目標：

【知識及び技能】知識の習得や知識の概念的な理解、情報機器の操作の基本的な技術の習得ができている。

【思考力、判断力、表現力等】習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけている。

【学びに向かう力、人間性等】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。

科目 情報Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけるとともに、情報社会と人とのかかわりについて発展的に理解して、創造に参画する。	事象を情報とその結びつきの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	情報社会の進展と情報技術 ・情報技術の発展による人や社会への影響に着目し、情報社会の進展と情報技術の関係を歴史的にとらえられるようにする。	オリエンテーション ・情報Ⅱの学習目標と学習内容を理解する。 情報社会を実習から把握する ・噂の研究 ・地域分析シート ・AIと職業 ・POSシステム	【知識・技能】 ・定期考査 ・提出物  【思考・判断・表現】 ・定期考査 ・提出物	○	○	○	4
	情報社会の実情を把握し、様々な影響に関する知識を得る	情報社会 ・情報社会の進展と情報技術 ・コミュニケーションの多様化 ・人間の知的活動への影響	【主体的に学習に取り組む態度】 ・授業への取り組み  ・グループワーク時のプレゼン等	○	○	○	3
	コミュニケーションとコンテンツ ・多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性に着目し、目的や状況に応じて情報デザインに配慮したコンテンツを制作し、思考力、判断力、表現力を身につける。	コンテンツ制作 実習 ・プログラムで絵を描こう ・楽しく体を動かそう ・情報をまとめよう 情報社会 ・情報社会の進展と情報技術 ・コミュニケーションの多様化 ・人間の知的活動への影響 ・3Dの新製品の開発しよう	【知識・技能】 ・定期考査 ・提出物  【思考・判断・表現】 ・定期考査 ・提出物	○	○	○	9
	メディアの特性と利用を考えてコンテンツの制作や発信について企画することができるようにする。	メディアの特性と利用 コンテンツの制作 コンテンツの発信	【主体的に学習に取り組む態度】 ・授業への取り組み ・授業ノート・プリント ・リアクションペーパー	○	○	○	7
定期考査				○	○		1
2 学 期	情報とデータサイエンス ・多様かつ大量のデータを活用することの有用性に注目し、データサイエンスの手法によりデータを分析し、その結果を読み取り解釈することができるように指導する。	データサイエンス 実習 ・データを地図上に可視化する。 ・ガチャは何回引けば当たるか ・データを整理しよう ・キーボードの配列を研究しよう ・星座ランキングを分析しよう ・好きなものをマップにしよう	【知識・技能】 ・定期考査 ・提出物  【思考・判断・表現】 ・定期考査 ・提出物	○	○	○	7
	データの種類や収集方法を理解し、必要なデータを取得し、整理するし、提案に結び付けることができるように指導する。	社会にあふれるデータ データベースの管理と操作 データの収集と整理 データの分析と分類 モデルの評価と検証	【主体的に学習に取り組む態度】 ・授業への取り組み ・グループワーク時のプレゼン等	○	○	○	10
	情報システムとプログラミング ・情報システムの在り方や社会生活に及ぼす影響、情報の流れや処理の仕組みに着目し、情報システムの仕組みや役割を把握できるように指導する。	情報システム 実習 ・タブレットを探せ ・顔検出とARを体験しよう ・小さな情報システムを作ろう ・テキストマイニングしてみよう ・掲示板システムをつくらう	【知識・技能】 ・定期考査 ・提出物  【思考・判断・表現】 ・定期考査 ・提出物	○	○	○	5
	情報システムの技術や設計について学び、情報システムのプログラムがどのように構築されていくかを理解できるようにする。	情報システム 情報セキュリティ技術 情報システムの設計 情報システムのプログラム	【主体的に学習に取り組む態度】 ・授業への取り組み ・グループワーク時のプレゼン等	○	○	○	8
定期考査				○	○		1

3 学 期	1学期、2学期を通じて培った知識と技能を使って、卒業作品の制作に取り組む	ウェブページの制作 情報システム制作 映像作品の制作	<b>【知識・技能】</b> ・定期考査 ・提出物  <b>【思考・判断・表現】</b> ・定期考査 ・提出物	○	○	○	5
	自己の作品やウェブなどを通じて得た知識などをレポート形式でまとめて、提案書類として提出できるよう指導する。	プレゼンテーションの技法 ポスターセッション形式でのプレゼン	<b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> ・授業への取り組み ・グループワーク時のプレゼン等	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1
							合計
							70